

気象庁は1月5日（月）、昨年12月の天候まとめを発表した。

断続的に入った寒気や強い冬型の気圧配置の影響で全国的に気温が低く、日本海側を中心に降雪量が多かった。降水量は北日本（北海道、東北）と東日本（関東甲信、北陸、東海）のいずれも日本海側が12月として1946年の統計開始以来、最多となった。

出典：H27.1.5 気象庁 報道発表資料より抜粋



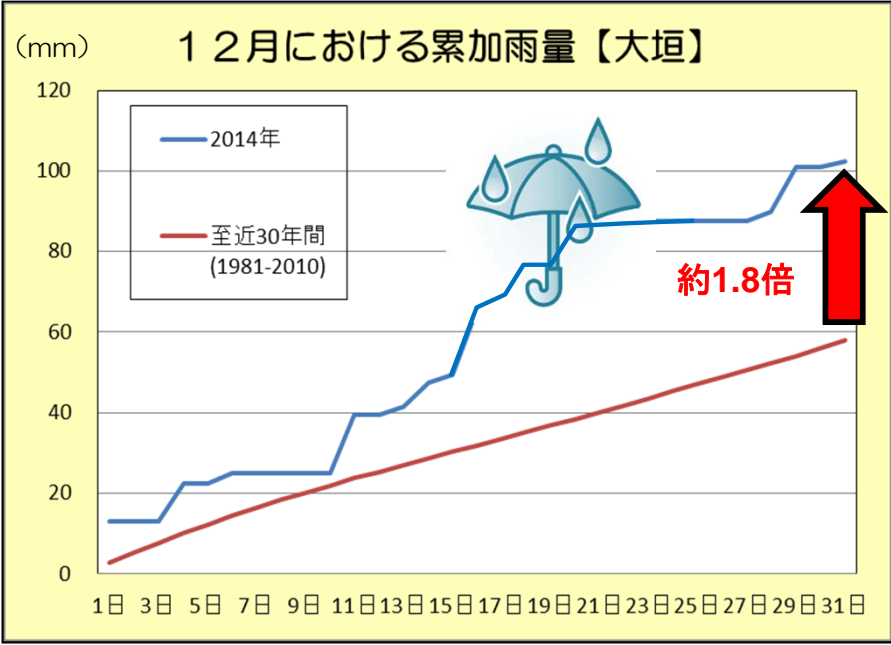
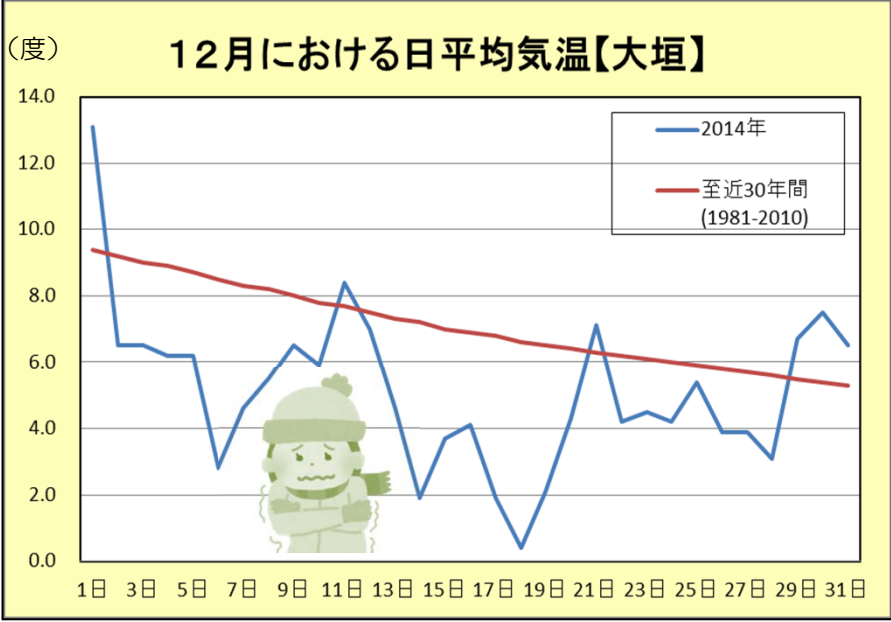
福東大橋地点の積雪状況（輪之内町福東地先） 撮影：平成26年12月16日

『12月はやっぱり寒かった！』 大垣の降水量 平年比の約1.8倍

上記、気象庁から発表された内容について、当出張所官内の状況について整理した。なお、地点は、気象庁が管轄する「大垣観測所」とし、気象庁から公表されている統計データを用いた。

その結果、大垣における昨年12月の平均気温は5.1度で、至近30カ年の平年値（7.1度）と比べ**2.0度低かった**。また、昨年12月の累加雨量（総雨量）は約103mmで、至近30カ年の平年値（約58mm）で**約1.8倍に上がった**。

一方、全国各地の平均気温は、平年比で西日本（近畿、中四国、九州）が1.6度、東日本が1.3度、沖縄・奄美が1.1度、北日本が0.9度、それぞれ低かった。また、累加雨量（総雨量）は平年比で東日本の日本海側が約2.2倍、北日本の日本海側が約1.5倍に上がり、これらの結果と見比べて、大垣も同様の天候状況であった。



出典：気象庁HPより公表されている統計データを下にオリジナルに作図